

平成16年度

業 務 報 告 書

平成17年8月

三重県科学技術振興センター

工 業 研 究 部

ま え が き

我が国経済はやや明るさを取り戻しつつあるようですが、製造業を取り巻く環境は、国際競争力の低下、生産拠点の海外移転による物づくり産業の空洞化、原油や鋼材の価格上昇等によって、依然として厳しい状況下に置かれています。

このような状況に対応するため、三重県科学技術振興センター工業研究部は、県の「しあわせプラン」に基づき、“技術の高度化の促進”を重要施策課題として、企業の技術力・製品開発力向上のための研究開発に積極的に取り組むとともに、地域に開かれた技術支援機関として、その役割を充分発揮できるように業務に取り組んでおります。

平成16年度の研究事業においては、“県民しあわせプラン”の重点プログラム「自律的産業集積基盤の整備推進プログラム」として、“積層組立ての容易な固体高分子型燃料電池用セパレータの開発事業”、“低コスト太陽電池開発促進事業”に取り組みました。

また、地域ニーズに対応するため、安全、安心、健康、環境リサイクルなどの研究課題にも取り組み、プロジェクト研究、産学官の共同研究などを実施してきました。

企業との共同研究では、新商品開発推進事業で開発した陶磁器製品を“ぽればれ屋”として商品化され、評価を受けました。

技術支援事業としては、企業現場に出向いてニーズを把握する“出前キャラバン”を実施し、企業等が行う技術開発を積極的に支援するとともに、機器開放事業や企業の人材育成事業、研修会・研究会・研究成果発表会等を開催し、成果の公開や移転を図ってきました。

行政部門との連携については、メディカルバレー構想に基づく支援や燃料電池実証試験などで研究機関としての貢献をしてきました。

また、三重県知的所有権センターでは、重点プログラム「知的財産権活用支援事業」に取り組み、アドバイザーが常駐して、特許等の知的財産権に関する検索や相談、セミナーの開催、特許移転などの事業を積極的に実施してきました。

一方、県民の科学技術に関する意識の向上のため、科学技術週間行事、出前科学体験教室などの事業に取り組んできました。

今後も、産業界の技術力の向上を図るため、新製品・新技術の開発や技術支援、人材の育成など全力で推進してまいりますので、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ここに、平成16年度に当研究部が実施いたしました事業の概要をとりまとめましたので、参考になれば幸いに存じます。

平成17年8月

三重県科学技術振興センター

工業研究部長 西尾 憲行

目 次

まえがき	
1 沿革	1
2 規模	3
2.1 敷地と建物	3
2.2 組織と業務	4
2.3 職員	5
2.4 決算	6
3 研究業務	6
3.1 特定プロジェクト研究	6
3.2 共同研究事業	8
3.3 特定試験研究等	9
3.3.1 県単事業	9
3.3.2 執行委任事業	11
3.4 経常研究	12
3.5 調査研究	13
3.6 4県連携事業	13
3.7 その他の共同研究(含む指導)	13
4 開放機器の利用	15
5 知的財産権活用支援事業	18
6 技術支援業務	19
6.1 電子材料研究センター事業	19
6.2 商品開発推進事業	19
6.3 出前キャラバン(中小企業技術ニーズ発掘事業)	19
6.4 技術相談処理	20
6.5 技術支援	21
6.6 講師、審査員及び委員の派遣	22
6.6.1 講師の派遣	22
6.6.2 審査員の派遣	23
6.6.3 委員の派遣	23
6.7 技術者の養成	25
6.7.1 ものづくり技術者育成事業	25
6.7.2 ベンチャー企業等研究開発支援事業	26
6.7.3 研修生の受け入れ	26
6.8 協同組合事業等への支援	27
7 研究会等の開催事業	27
7.1 科学技術振興センター先導的研究会への参加	27
7.2 デザイン開発推進事業	28
7.3 講習会・講演会等の開催	28
○関連団体による事業(研究会、講習会、講演会の開催)	29
7.4 科学技術の振興	32
7.5 展示会の開催	32
7.6 展示会等への参加	33
7.7 出前科学体験教室	34
8 依頼試験業務	34
9 新設した主要機器	35

10	研究発表	36
10.1	学会発表	36
10.2	その他(研究発表)	38
11	産業財産権の出願	43
12	その他	45
12.1	学位取得	45
12.2	博士号取得促進事業	46
12.3	ISO9001認証業務	46
12.3.1	ISO9001研修派遣	46
12.3.2	ISO9001審査・サーベイランス	46
12.4	生産物売却	47
12.5	刊行物の発行	47
12.6	建物配置図	48